

# S.O.S

Vol.4

## 認定活動報告集

Students' Organization for Self-help and Official Support

一緒にやってみんかえ?

活動メンバー  
募集中!!

高知大学では、  
学生同士の相互扶助(ピア・サポート)を中心に、  
学内の活性化、地域貢献に積極的に取り組む  
学生団体を公的に支援しています。

平成24年度 高知大学認定団体

- ▶ 献血促進プロジェクト いのちのリボン
- ▶ 高知大学国際協力団体 すきつぷ
- ▶ わっ花 一花を通じて繋がるー あぐりい〜ず
- ▶ 地域と大学をつなぐ コラパ〜まつり実行委員会
- ▶ 高知大フリーペーパー発行 Boshipan
- ▶ 高知子ども守り隊 守るんジャー
- ▶ インプット高知 はちきんチェルシー
- ▶ 高知大学学生ボランティアセンター

 高知大学  
Kochi University

# Contents

- 02 巻頭のことば — S・O・Sが切り拓く大学教育の新たな地平
- 03 S・O・S認定活動を知っていますか？
- 05 S・O・Sに寄せて
- 06 S・O・S認定団体の魅力、再発見！ — 私たちは、頑張る学生を応援しています！

## 平成24年度 S・O・S認定活動報告

- 08 献血促進プロジェクト いのちのリボン
- 09 高知大学国際協力団体 すきっぷ
- 10 わっ花 — 花を通じて繋がる — あぐりい〜ず
- 11 地域と大学をつなぐ コラパ〜まつり実行委員会
- 12 高知大フリーペーパー発行 Boshipan
- 13 高知子ども守り隊 守るんジャー
- 14 インプット高知 はちきんチェルシー
- 15 高知大学学生ボランティアセンター
  
- 16 コラボレーション・サポート・パークからのお知らせ
- 17 総合教育センター 修学支援部門の取り組み

## 巻頭のことば

---

# S・O・Sが切り拓く大学教育の新たな地平

高知大学総合教育センター長  
理学部 教授  
吉倉紳一



今、私の手元にS・O・S認定活動への応募を学生に呼びかけるポスターがあります。そこには「学生による自律的・組織的活動プロジェクト募集、がんばる学生を応援します」と記されています。このキャッチコピーがS・O・Sの企図を端的に表しています。S・O・SとはStudents' Organization for Self-help and Official Supportの略称で、学生の自主的な活動組織であり、それを支援する教職員の組織でもあります。やる気があり、がんばる学生に活躍の場を与え、その活動を総合教育センターの修学支援部門に設置されたS・O・S支援部会の教員や、学生支援課の職員が指導・助言すると共に、財政的にも支援するものです。それにより、学生の自律性や社会性を涵養することを目的としています。

S・O・Sの活動内容は学生のためのピア・サポートを目的とした活動と、地域活動・地域貢献を目的とした活動に大別されます。修学支援部門では前者に対しては「ピア・サポーター養成講座」を、後者に対しては「ボランティア養成講座」を開講し、活動の質の向上と人材育成に取り組んできました。その結果、S・O・S支援部会の審査によってS・O・Sと認定された団体数は年々増加して、2012年度は8団体に達しました。

S・O・Sの活動は社会的にも高い評価を得て、「高知子ども守り隊 守るんジャー」のように2010年度SYDボランティア文部科学大臣賞を受賞する団体もできました。また、S・O・Sは正課外の教育活動の新たなスタイルとして他の大学からも大いに注目されています。大学には問題を発見し解決する力、他者と協働して物事に当たる力などを備えた人材の育成が求められていますが、ともすればこれらはお題目だけに終わりがちです。しかし、S・O・Sに参加している学生はさまざまな活動を通じて、これらの力を着実に身につけていることが本報告書の端々からうかがえます。S・O・Sは大学における上記の教育目的を達成する教育の場や方法として、きわめて有効に機能していると確信できます。

今後は学生・教職員が不即不離の関係を保ちつつ、参加団体の数を増やすことはもとより、これまでの活動内容の検証と、それに基づく改善をおこない、高知大学で産声を上げ、ここまで成長したS・O・Sをより大きく育て上げなければなりません。これまで以上の学生諸君の奮起と教職員の熱意溢れる支援を期して、巻頭のことばといたします。

# S・O・S認定活動を 知っていますか？

総合教育センター修学支援部門長  
S・O・S支援部会長  
准教授 玉里 恵美子



## ▶ S・O・S認定活動とは

高知大学S・O・S認定活動をご存知ですか。S・O・Sとは、Students' Organization for Self-help and Official Supportのことで、本学の学生相互支援(ピア・サポート)活動組織を指しています。また、そのような活動を大学として公的に支援していこうとするものです。

高知大学におけるS・O・S活動の歴史は古く、1997年度に導入された新入生のパソコン必携がきっかけとなります。当時はまだパソコンが普及しておらず、パソコンの知識を有する学生が、パソコンの扱いになれていない学生を教えるというピア・サポート組織が立ち上がりました。2000年10月には「学生による高度情報化支援組織」が設立され、S・O・Sという名称のもと、大学が学生の活動を支援していくことになります。学生による支援の輪が広がり、2003年度には「国際交流協力セクション」が増設されました。また、2004年度より高知大学教育創造センター(当時)がS・O・Sを担当し、「学生相互支援企画」および「プレゼンフェスタ」を通じてS・O・S活動の再構築を行ってきました。そして、学生による活動の多様性に対応すべく、2006年度からは活動の目的を「学生ピア・サポート」と「地域活動・地域貢献」の2つの領域と設定し、学生の申請による支援を開始し、より学生の自主性・自律性を涵養できる体制を整えました。2009年度より総合教育センター留学生・修学支援部門へ、2011年度より修学支援部門が担当しています。また、2012年度よりリエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク(通称 コラパ〜)が学生支援の拠点となりました。



過去の取り組み:  
防災すけっと隊の東北地方太平洋沖地震  
義援金募金活動  
HPアドレス <http://kochidisaster.web.fc2.com/>

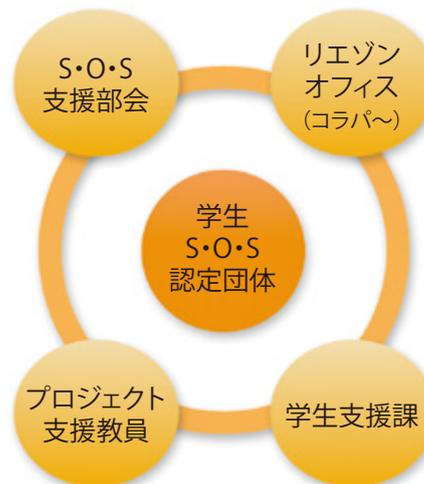


過去の取り組み:就活会の就活カフェ

## ▶ S・O・S認定活動の組織

S・O・S認定活動の運営はS・O・S支援部会が行っており、現在は5名の教員で構成しています。S・O・S支援部会の活動目的は、①学生による多種多様なピア・サポート活動の発掘(募集)と拡大、②相互支援活動組織である各プロジェクトチームの支援の充実、③新しいS・O・S活動及びS・O・S支援活動システムの定着と検証、です。毎年春には、学生からの申請に基づき、その審査および採択の可否決定を行っています。また、年に2回開催される活動報告会や、「秋の相談ウィーク」を通じて、S・O・S支援部会から活動の指針となるアドバイスがなされ、学生にとってブラッシュアップの場となっています。

さらに、各々のプロジェクト(学生団体)には、1名のプロジェクト支援教員がいて、学生活動の指導・サポートにあたります。学生の主体的な活動を尊重しながら、S・O・S支援部会、プロジェクト支援教員、コラパ〜、学生支援課がそれぞれの立場からアドバイスを行い、学生の自律的な能力の形成に寄与することをミッションとしています。



S・O・S支援部会		
玉里恵美子	部会長	総合教育センター修学支援部門 准教授
辻田 宏	委員	共通教育実施機構/総合教育センター大学教育創造部門 教授
池田啓実	委員	人文学部/総合教育センターキャリア形成部門 教授
小島郷子	委員	教育学部 教授
今城逸雄	委員	リエゾンオフィス室長/総合教育センター社会協働教育部門 特任講師

## ▶高知大学における学生の自主的・組織的活動の流れ

本学では実践的課題探求型教育に力を入れて取り組んでいます。共通教育科目の課題探求実践セミナーを通じて見たり・聞いたり・体験したりしたことをきっかけに、多くの学生が「自分も何かをしたい」と能動的な活動をするようになります。朝倉キャンパスの「コラボレーション・サポート・パーク（通称 コラパ〜）」では、主に1～2年次生に対して「コラボ考房プロジェクト」を実施しており、学生のやる気と企画を支援しています。

本学には2008年に発足した「高知大学防災すけっと隊」という学生団体があります。防災すけっと隊の活動内容は、南海地震に直面する高知県において次世代を担う小・中学生や高校生に対して防災教育を行ったり、若い人の力が不足している地域での防災活動を行ったりすることです。防災すけっと隊は2009年にコラボ考房の支援を受け、2010年にはS・O・S認定団体になりました。そして、地道な活動を継続発展させながら2012年には本学の課外活動団体（サークル）に登録されました。

このように、学生の自主的・組織的活動の展開の流れが少しずつ形になってきました。コラパ考房で生まれた活動の芽を花開かせるため、S・O・S認定活動として見守っていくことも大切な役割だと思えます。



## ▶S・O・S認定団体になるためには

学生団体がS・O・Sとして認定されるためには、学生の申請に基づきS・O・S支援部会の審査を経て、採択されなくてはなりません。S・O・Sに申請しようとする団体は、①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互に支援する活動である必要があり、本学の公的組織S・O・Sとして認定されれば、一定の財政的な支援やアドバイスが受けられる仕組みになっています。

また活動の領域は、①学生のためのピア・サポートを目的とした活動、②地域活動・地域貢献を目的とした活動、の2つに設定しています。

本書は2012年度に採択された8団体の活動報告書です。また、学内外の多くの方々にS・O・S認定活動を知ってもらうために、S・O・S支援部会やプロジェクト支援教員のメッセージも掲載しました。学生のみなさん、S・O・S認定団体に入って一緒に活動してみませんか？ また、自分たちでプロジェクトチームを作ってS・O・Sに挑戦してみませんか？ 毎年、春（5～6月頃）に公募があります。大学構内の掲示板やウェブの学生グループウェアを良く見ておいてください。

**S・O・S活動に関する相談は  
一年中受け付けています。**



リーダー会議の様子

# S・O・Sに寄せて

## 地味で地道な活動が S・O・Sの神髄

人文学部 教授 池田啓実



10年が経過したS・O・S設置の契機は1997年度に始まった全新生入生のパソコン必携化でした。まだまだパソコンの活用が日常的ではなかった時代、円滑な必携化には、学生による学生のための自律的な支援が必要と考え組織化したのがS・O・Sです。その後、ミッションは、現在のような学生サポートや社会的課題の解決を目指す学生グループの支援へと大きく変貌しましたが、「地味で地道な活動」はこれまで一貫して重視してきています。

実は、この視点は実際の仕事においても重要です。新日鉄ソリューションズ(株)人事部部長にして本学客員教授でもある中澤二朗氏は、「しごと」を性格(壁と穴)と種類(日常と非日常)で観ると、その8割は繰り返し作業(日常)であり、業務埋没的(しごと壁)なもの。しかしかたや、そうした仕事こそが社会を下支えし、人はそれに正対することを通して他者の「信頼」を得る、あるいは「問題と変化」への対応力を磨き、「まだ見ぬ自分」にも会える(成長)と言うのです。

S・O・S活動は、社会的課題の解決、企画立案力などに目が行きがちですが、中澤氏が指摘するように、質の高い他者に必要とされる活動であるには、地味で地道な活動を通して得た「信頼」が基盤になればなりません。S・O・Sスタッフはむろんのこと、これに関心のある学生の皆さんにも、ぜひこの点を意識してもらえればと思います。

## S・O・Sの理念

共通教育実施機構 教授 辻田 宏



2005年度までのS・O・S活動は、情報セクション及び国際セクションに特化していましたが、2006年度からはその区分をなくして、学生の申請に基づく多種多様な学生によるピア・サポート活動をS・O・Sとして幅広く認定し支援を行うことになり現在に至っています。その際の制度設計には3つの基本原則がありました。

まずその一つは、「公共性の担保」ということです。当該活動は学内すべての学生に開放され、合理的な理由のない限り、参加を希望する学生を拒否できないというものです。二つ目は、「貢献性の追求」です。活動(プロジェクト)内容は、大学(学生)や地域(社会)をより良くしていくという側面を有している必要があります。三つ目は、「自律性の獲得」です。活動(プロジェクト)に参画する学生は、ピア・サポート活動及び人や社会との協働を通じて自らの自律性や社会性の涵養を図る努力をしなければなりません。

あれから、5年が経過しました。この間素晴らしい取り組みもなされていますが、改めてこの3つの原則に基づいて検証を行う時期に来ているように思います。もちろん、それによってはこれらの原則に見直しも必要になるかも知れません。

## 学生の主体的な活動の 支援に関わって

教育学部 教授 小島郷子



S・O・Sの活動に関わるようになって10年以上が経ちます。パソコン必携がスタート直後の情報セクションから関わっていましたが、当時は学生の支援というより、学生が正課外活動に自主的に関わる中で、何を学び何が得られるのかを、学生から学んでいたように思います。学生の主体的な活動はコミュニケーション力や企画力の育成に役立つことはもとより、地域をフィールドとすることから、地域貢献の一端も担っていることを学びました。地域をフィールドとした活動を展開する場合、学生や大学側だけにメリットがあるのではなく、両者がWin-Winの関係でありたいと思います。

私は教員養成に携わっていますが、大学4年間で実践的指導力をもった教員を養成して、教育現場に出ることが求められています。教員をめざす学生にとって、学習チューターなどのボランティア活動が教員に必要な実践力の育成に役立つことは間違いありませんが、そのことが子ども達のためになっていることを願っています。

高知大学のS・O・Sの取り組みは広く評価されていると思います。これからも、正課外の学習が、学生にとって価値あるものになるように、支援していきたいと思います。

## S・O・Sに期待すること

総合教育センター 大学教育創造部門

教授 塩崎俊彦



S・O・Sの報告会などで学生の生の話を聞くことがあります。立派な成果を挙げてそれを報告している団体もありますが、なかなか自分たちの思った通りにことが運ばず、現実的な問題に悩み葛藤しながら、気持ちが折れそうになっていることを率直に打ち明ける学生たちもいます。

耐え切れず活動から遠ざかっていく者もいますが、どうしていいかわからないけど、とにかく続けていかなければならない、と考えて頑張っている学生も多くなります。そうした学生たちにとって、続けていこうとする力の源は、より深く社会とつながっていることにあるような気がします。「引くに引けなくなった」といえば消極的に聞こえるかもしれませんが、その気持ちが彼らを支えているのではないのでしょうか。そして、それが社会とつながることの第一歩であると思います。そうした経験を数多く積み重ねていくことができるのは、S・O・Sの大きな特徴でないでしょうか。

もうひとつ。S・O・Sには学生間のピア・サポートという性格があります。S・O・Sで活躍している学生のみなさんには、同じような悩みを抱えるまわりの学生たちのよき相談相手として、自分たちの経験をもとに彼らをサポートしていった欲しいものです。多くの仲間を巻き込みながら、S・O・Sの各団体がさらに力にあふれた活躍を続けることを祈っています。

# S・O・S認定団体の魅力、再発見!

## 私たちは、頑張る学生を応援しています!

「S・O・S支援部会」のほか、「リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク」(通称コラパ〜と呼んでいます)や、「学生支援課」がS・O・S認定活動のサポートをしています。それぞれの立場から、日頃の学生たちの印象や、S・O・Sへの期待などを語っていただきました。

member



総合教育センター  
リエゾンオフィス室長  
今城 逸雄



コラボレーション・サポート・パーク  
教務支援員  
大槻 聖子



学生支援課  
課長補佐  
喜多 理江



(司会)総合教育センター  
修学支援部門長  
玉里 恵美子

— では、リエゾンオフィス室長兼S・O・S支援部会の今城先生からお願いします。

**今城** IKUS(大学生協)の2階にあるリエゾンオフィス(コラパ〜)は、地域と学生をつなぐ窓口です。学生が地域で経験を重ね、チャレンジをしていくための様々なサポートを行っています。それだけではなく、学生と学生をつないでいく、つまり学生の仲間づくりの手助けもしています。あとで大槻さんから説明してもらいますが「コラボ考房プロジェクト」の活動を通じて磨きのかかった「先輩」の役割をS・O・S認定活動が担っていると思います。

— S・O・S認定団体の前段階として、「コラボ考房プロジェクト」が出てきましたが、コラパ〜教務支援員の大槻さんから説明してください。

**大槻** 「何かやりたい気持ち」を持った大学1~2年生を対象に、その「何か」を見つける機会をコラパ〜では提供しています。年に4回、3人以上のチームで「コラボ考房プロジェクト」の公募をしています。現在は5チームが活躍していますよ。「過疎地域の野菜作りを萌えキャラで盛り上げよう」、「学内の留学生と交流しよう」、「高知ケーブルテレビと一緒に番組を作成しよう」、「まんがやゲームで高知を盛り上げよう」とかですね。いずれも学生の視点を大切にしながら実現化できるようにサポートしています。でも、やっぱり自分たちが「やるべきこと」がチームで共有されているところは大丈夫ですが、目標が明確でないとき…。

— 学内には多くの学生団体がありますが、やはり活動の目標が定まっていなくて、活動が停滞してしまいますよね。学生支援課から本学の学生団体の活動をみると、何か特徴的なところがありますか。

**喜多** 約6000人の学生に対してどのような支援ができるか、日々考えながら仕事をしています。各キャンパスの学生支援担当課は、おそらく学生にとって一番身近な大学事務職員だと思います。学生自治会をはじめ、多くの学生団体と接することが多いですが、その中でもS・O・S認定活動は、体育会系・文化系のサークルと違って、まだまだ活動の方向性に「悩み」があるのかなと思います。自分たちの活動に対する「思い」や「熱さ」はあるけれども、私たち事務職員や、地域の人たちとの交渉力が少し足りないように感じる時もあります。失敗を恐れずに、どんどん活動を深めて、学内でリーダーシップをとってほしいですね。けれども、一方で、活動に対する情熱が強すぎて、つぶれてしまわないかなと心配になることもあります。時々、私のところにもそういった相談がありますよ。

— S・O・S認定団体には大学が公的に支援をしていくということですが、それは経済的な援助だけではなくて、学生支援課やコラパ〜が角度をかえて支援しているのですね。

**喜多** 学生支援課に来た学生と話していると、主体的に活動をしている学生が、ずいぶん成長したなと感じることがあります。

## S・O・S認定団体の魅力、再発見!

私たちは、頑張る学生を応援しています!

**今城** 地域とつながることでの成長には目を見張るものがあります。今の学生はコミュニケーション能力が低いといわれていますが、一步地域へ出ると、学生扱いしてもらえない。一人の大人として扱われるわけです。頑張って、コミュニケーションを取らざるを得ない(笑)。でも、ただやみくもに地域に出ればそれで良いわけではありません。リエゾンオフィスでは、学生と「良い大人」とのつながりを大切に考えながら、出会いの場を設定しています。

**大槻** 私たちの学生の頃にはなかった取り組みですよ。私も大学生の時にやりたかったな~と思いながら、学生を支援しています。コラパ~では、「コラボ考房プロジェクト」の募集だけではなく、いろいろなセミナーもやっていますので、多くの学生さんに参加してもらいたいです。アンテナを高くしてコラパ~発の情報をキャッチしてほしいですね。

— 地域で活動することがクローズアップされますが、実は学内の学生にも良い影響を与えていますよね。

**今城** 地域で頑張っている学生の様子を、他の学生が見ると、いうことが大切だと思います。そして、「自分もできるのではないか」という意識を持ってもらいたいですね。そのためにも活動の可視化は必要だと思います。

**大槻** お世話になった地域をつないでいこうと、黒潮祭(大学祭)の時に「コラパ~まつり」を開催しています。コラパ~まつり実行委員会もS・O・S認定団体の一つなのですが、第二回目の開催を前に少し目標を見失いかけていた時に、ちょうど「S・O・S認定活動 秋の相談ウィーク」があり、「もっと学内の学生にアピールする場にしていこう」、「大学と地域をつなぐことも大切だけれど、学生と学生をつないでいく場にしていこう」ということを話し合っ、活動が大きく展開したと思います。

— S・O・S認定活動は学生のピア・サポートであることが原点ですからね。いつも、S・O・S認定団体には、地域活動の充実とともに、学内での活動をどうするかを考えてもらっています。地域活動と学内活動は車の両輪ではないかなと思っています。

**喜多** このような学生団体の活動があることを、学内でも知らない人が多いのではないのでしょうか。なにか「時間と場所」を設定して活動内容をもっと大々的に公開してみようでしょうか。活動を展開するためにも、新しいメンバーを増やしたいでしょうけれど、新入生の勧誘はどのようにしているのですか。



**大槻** 確かに、それぞれの団体がバラバラで勧誘していますね。

**今城** 秋の黒潮祭の時に「コラパ~まつり」を開催してきましたが、そういえば、春には春芸祭がありますね。春芸祭はサークル活動の新入生勧誘が主な内容だと聞いていますが、その時に、「コラボ考房プロジェクト」や「S・O・S認定団体」も一緒になって、何か「祭り」をできるかもしれませんね。そうだな...仮に「準正課※祭り」と呼んでみませんか。

**大槻** それは固すぎる... (笑)。でも、さっそく実行委員会を立ち上げて、自治会とも連携しながら準備していきたいですね。今年から「S・O・S認定団体」になった「学生ボランティアセンター」が中心的な役割をしてくれそうですね。「コラボ考房プロジェクト」と「S・O・S認定団体」をつないでいくためにも必要な「祭り」だと思います。

**喜多** 高知大学がこのような学生支援体制をとっていること、このような素敵な資源をもっていることを広く学内外に伝えていかないとはいけません。やりましょう「準正課祭り」!

— ということで、S・O・S認定団体を支援している私たちの熱い「語り」の中で、なんと「準正課祭り(仮称)」が生まれ、後日、実現化することに決定しました。平成25年4月、春芸祭とタイアップして新しい祭りが始まります。その名も「<sup>えす</sup>Sパー祭り」です。皆さんもぜひ、ご参加ください。

※準正課: 正課の授業における教育支援と、自発性・自主性を担保とする課外授業の2つの機能を併せ持ったシステム

# 平成24年度 S・O・S認定活動報告

## 学生パワーで若者の献血離れを食い止めろ!

### ▶献血促進プロジェクト いのちのリボン

#### ▶活動目的

高知大学朝倉キャンパスに献血バスが来た際に学生の献血者数を増やすための活動をしています。学生が声かけやティッシュ配りをすることで献血が身近なものであると認識してもらい、また、献血について多くの学生に知ってもらい知識を増やすことを目的にしています。

#### ▶今年度の活動

**学内:** ほぼ毎月1回、高知大学朝倉キャンパスに献血バスが来たときにティッシュ配り、声かけをしました。事前に学内の献血者数増加のために献血バスが来ることを知らせるピラを作成、配布しました。12月より献血バスが来た後に献血風景や献血の流れなど写真入りで掲示板に掲示する献血新聞を作成、掲示しました。また、中央公園やイオンで行なわれる献血キャンペーンのポスターを学内に掲示しました。献血バスが来た際にいのちのリボンとして何かできないかとトマトジュースの配布の計画を立て試作をし、問題点や改善点などの計画を練り中です。

**学外:** クロス倶楽部としてイオンや中央公園である献血キャンペーンへ参加しました。(七夕献血キャンペーン、中四国統一献血キャンペーン、クリスマスキャンペーン、成人の日献血キャンペーン、バレンタイン献血キャンペーン) 1月にイオンで行なわれたFM高知主催のイベントに出演し、献血の呼びかけを行ないました。赤十字の職員さんたちからいのちのリボンのためにくださった献血についての講義を聞き、勉強会を行ないました。赤十字の社会人ボランティアの青年奉仕団と関わって街頭募金活動、赤十字の救護訓練にも参加してもらいました。

#### ▶これからの活動

朝倉キャンパスに献血バスが来たときのティッシュ配り、声かけをします。ただ「献血にご協力ください」と言って声かけをするだけでなく一人ひとりと少し話をして献血について知ってもらうようにしています。献血新聞を毎回製作、掲示したり、献血後の水分補給としてトマトジュースを献血バスの来た際に配布したりしています。これらにより朝倉キャンパスの献血者数増加を目指します。今まで活動が朝倉キャンパスに限定されていましたが、農学部のメンバーが入ったため来年度からは物部キャンパスでの献血活動の手伝いもする予定です。引き続き献血キャンペーンにも参加し、赤十字がこれからDVを受けた子どもたちのいる施設にボランティアとして行って、子どもたちと触れ合って精神的なケアを行う活動もする予定です。そのボランティアとしてのいのちのリボンのメンバーも関わっていきたいと思います。



献血バス来校時のティッシュ配り



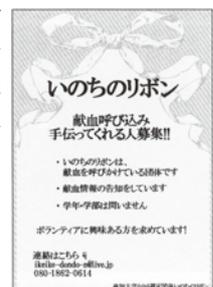
クリスマスキャンペーン

「献血したよ」の  
友だちの声が  
やりがいへとつながっています。

一言  
コメント

人文学部 准教授 円谷友英

献血促進のためのポスター貼りやピラ配りといったマス広告からスタートしましたが、口コミによる広がり的重要性にも気が付いて、地味で地道な活動にも励んでいます。近頃は、友人づてに「献血したよ」といった声が届くようになり、献血者の増加を少しだけ実感できるようになりました。



# フェアトレードを通じて高知から世界の貧困問題にアプローチ

▶高知大学国際協力団体 すきっぷ

## ▶活動目的

「すきっぷ」は、持続可能かつ現実的な活動を行いながら、国際問題に関する知識を得ていくと同時に、所属メンバー各個人のスキルアップ向上を目的として活動しています。

黒潮祭では学生や地域の方々にフェアトレードの存在を知ってもらうために、フェアトレードコーヒー（東ティモール産）を販売しました。また、マラウイのエイズ孤児による手作りのビーズ商品（バッジ・プレスレット等）や、東日本大震災復興支援のために、被災者の方々が作った『にこまるクッキー（ハガキ付き）』と、チュロスの販売をしました。これらは、学生だからこそできる活動だと思います。

## ▶活動を終えて

フェアトレードコーヒーやマラウイのエイズ孤児による手作りのビーズ商品、そして『にこまるクッキー』が売れた時の感動は大きかったです。また、多くの人にフェアトレードについて関心を持ってもらえることができたと思います。しかし、「フェアトレードとは何か」という質問に対して、即座に答えられなかったことも事実で、その時、自分たちの知識が浅いことを再認識しました。コーヒーの移動販売では、このコーヒーは何豆で作られているかについて聞かれることがありましたが、それに関しても即座に答えられませんでした。

今後は、「すきっぷ」が取り扱っている商品等の詳細な情報や、知識について改めて理解する必要があると感じました。



団体内勉強会の様子



黒潮祭 ビーズ商品の販売



明德高校での啓発運動



## HPアドレス

[http://www.geocities.jp/hop\\_skip\\_jump11/index.html](http://www.geocities.jp/hop_skip_jump11/index.html)



**すきっぷは社会を  
より良くするため真剣に  
活動をしているグループです。**

人文学部 准教授 中澤純治

今年はいろいろあって例年に比べてイベントや活動は少なかったようですが、“すきっぷの使命とは何か？”を考えるちょうど良い機会になったのではと思います。皆さんの活動を通じて学内外でいろんな“国際協力する人”が増えることを期待しています。

## 地域と大学の架け橋になることを目指し、学生の目線で地域活性化を図る!

### ▶わっ花 — 花を通じて繋がる — あぐりい〜ず

#### ▶活動目的

学内に花を植えるなどの大学の美化活動、いの町是友地区の方々との花街道づくりや夏祭りの企画運営などを通して、大学と地域をより密接に繋げ活性化を図ることを活動目的としています。

#### ▶今年度の活動

4月24日、あぐりい〜ずで学生ラウンジにシバザクラを植えました。この作業の目的は、学内美化と、ラウンジを利用する学生の目に留まり自ら学内美化に努める学生を増やすこと、またこの花植えを通してコミュニケーションを図ることでした。一緒に作業をすることは達成できませんでしたが、シバザクラを植えたお庭で花見をしながらランチを食べている学生が増えたことにはとても意味があったと思います。春時期はお庭の利用者が増えていたような気がします。

5月〜約1ヶ月間大学1年生を中心とする“自律協働入門”の受講生を1グループ受け入れました。彼らの目的は今後の学生生活をより有意義にするために何をしたらいいか先輩の団体に入って考えることでした。そこで5、6月は自律のメンバーと一緒に学内の美化活動に加え、7月に毎年行っている是友夏祭りの企画を考えました。

7月21日、無事に「是友夏祭り」を開催することができました。去年は奇術部を呼んで大盛況でしたが、今年の祭りも力を入れました。今年の祭りのターゲット・テーマは「こども」。こども向けに〇×クイズをしたり、また、あぐりい〜ずがチョコバナナを作って出店したりするという、新たな挑戦もできました。地域の方に喜んでもらい祭りは成功した一方、試作品をきちんと作っていなかったり、時間管理や段取りが正確に出来ていないなど、課題も見つかりました。

2月10日、第2回是友演芸会を開催しました。高知大学からは、アカペラ同好会、奇術部、マンドリンクラブ、是友地区からは、岳風会是友支部の皆さんにステージを盛り上げて頂きました。今回の演芸会ではあぐりい〜ずも、これまで3年間の活動内容を紙芝居にまとめて発表しました。じゃんけん列車も行い、子どももお年寄りも高知大生もみんな一緒になって体を動かすことができ大盛り上がりでした。

#### ▶これからの活動

まず、学内での活動をより活発に行っていきたいです。今までは、学内のメインストリートや、榎クラブに花を植える活動をしてきました。これからはこの活動を続け、メインストリートだけではなく、学内のいたるところにお花を植えて学内美化に努めていきたいです。また、引き続き是友花街道づくりにも積極的に関わっていくために、定期的には友地区へ赴き、花街道の完成を目指します。地域の方々より親密になれるように是友地域の方々と一緒にグランドゴルフなどのイベントに参加する予定です。これからも楽しく活動していきます!!



是友地区の方と花街道づくりで汗を流す

是友夏祭りポスター



第2回 是友演芸会

高知LOVEの気持ちが  
企画力と実行力に  
つながっています。

応援  
メッセージ

総合教育センター 准教授 玉里恵美子

行動力と実行力の「あぐりい〜ず」。いの町是友地区と協働して、花街道作りに汗を流したり、高知大学音楽・演芸系サークルを動員した是友演芸会のプロデュースに知恵を絞っています。地域が大好き、そして高知大学が大好き。その気持ちが、演芸会の成功を導きました。また、学内の花壇にお花を植えるボランティア活動もしています。椰子の木の下可愛い花壇にも注目してくださいね。

# まつりを通じて地域と学生をつなぐ! 高知の楽しみ高知の元気をつくる

## ▶地域と大学をつなぐ コラパ〜まつり実行委員会

### ▶活動目的

わたしたちは高知県の地域の方と学生とのつながりを創出するということに重点を置いて活動を行っています。高知県というたくさんの魅力溢れた場所にいるというのに、大学の外へと目を向けることのできていない学生や若い力を求めている地域の方を対象として私たちコラパ〜まつり実行委員会は「学生×地域」のためのイベントの開催を行います。

### ▶今年度の活動

●学生ラウンジでのオープニングセレモニーでの企画

●大野見の方との共同企画(こちバスツアー)

●山下農園への農業体験 ●黒潮祭でのコラパ〜大祭り

が主な活動でした。前回のS・O・S報告会で意見を頂いていた「地域に向けての活動になっていた」ということを改善するためにできるだけ学生を巻き込んだ企画になることを心がけていました。今年度は学生ラウンジでのオープニングセレモニーに呼んで頂くことができ、また『こちバスツアー』で大野見へ学生をつれてのツアーも行うことができました。ツアーでは大野見の乙女たちと田舎ずしを作り、交流をはかりました。またコラパ〜まつりで鍋を作るに当たり、何度もお世話になっている山下農園さんへ農作業のお手伝いに行くことで今後の関係をさらに深めていくための活動にもなったのではないかと思います。さらに秋に行われる黒潮祭で開催したコラパ〜まつりでは地域で活動している学生、大野見の乙女たち、土佐山アカデミーさんなど多様な方々に参加して頂くことができ、テーマとしていた「おきゃく文化」を参加者の方たちにも感じて頂けたとアンケートの結果から感じています。

### ▶これからの活動

黒潮祭でおこなった「おきゃく文化」の取り組みに対して、アンケートの他にも直接意見を頂く機会があり、その際にもとても良かったとの言葉を頂くことができました。これからの活動は前回の取り組みをさらに深めることが重要だと考えています。また、地域から来て頂くことの多かったこれまでの活動から今年度では私たちが地域へと足を運ぶことに重点を置き、また多くの地域との交流をはかっていた活動方針をこれまで特に交流を持つことに積極的になって頂いた地域に的を絞ろうと考えています。

また地域ということで遠くの地域へと目が向きがちになっていましたが、これからの活動では高知大学付近の朝倉地域の方との交流にも力を入れたいと考えています。そのために「朝倉アカデミー」や「守るんジャー」などの活動団体と協力をしていこうと思います。

さらにこれからの活動の中ではコラパ〜まつり実行委員会だけの活動に力を注ぐのではなく、高知大学のほかの団体とも協力を深めることで規模の面でも、質の面でも上を目指していける活動にしようと考えます。



コラパ〜まつりの様子



地域の味を再現する



まつりは大成功!

活動を通じて、いろんな「高知」を満喫できます!

アピールポイント

総合教育センター 准教授 大槻知史

山の食、川の暮らし、海の恵み、人のつながり…日本でもトップクラスのド田舎な高知は、日本でもトップクラスな魅力の宝庫でもあります。大学から高知に来た人、高知県出身だけど、地元をあまりよく知らない人、地域と学生をつなぐこの団体に参加したら、いろんな「高知」とお知り合いになれますよー。

## “高知大学を楽しむためのトッピング”情報を発信

### ▶高知大フリーペーパー発行 Boshipan

#### ▶活動目的

こんにちは、Boshipanです。私たちは『ちょっとオイシイ高知大ライフ』をテーマに『Jam』を製作しています。現在は9名(ライター4名、デザイナー4名、カメラマン1名)で活動しています。私たちの活動理念は、始めに述べた『ちょっとオイシイ高知大ライフ』のために、学生生活に寄りそえるような『高知大を楽しむためのトッピング』を提供することです。私たちの製作した『Jam』を通すことで、モヤモヤしている大学生活をどうにかしたい人、楽しみを求めているけれど見つけられない人に、喜びや充実感を提供していきたいです。

#### ▶今年度の活動

2012年度は通常発行の『Jam』に加え、活動告知のポストカードを製作しました。さらにBoshipanのfacebookページを開設し製作状況を更新しています。取材現場の裏側や製作過程のこぼれ話などを掲載していく予定です。また、2013年度からは従来のB5サイズ28ページから、A5サイズ36ページに形態を移行します。以前よりサイズを小型化することによって、持ち運びやすくなりました。その分ページ数を増やし、内容をより充実させていく予定です。

#### ▶これからの活動

Boshipanではこれまでの活動方針に加え、社会に対する学生の意見も積極的に掲載していきたいと考えています。『Jam』をきっかけに、高知大生により視野を広げてもらいたいです。そして、新しい世界に触れる機会を提供していきたいと考えています。学生が様々なことに挑戦する足がかりになれば嬉しいです。そのためにもさらなる周知率の向上を目指して、設置場所の拡大やWebでの活動報告にも力を入れていく所存です。

手に取ってくださる方への気持ちを忘れずに、読者の皆さんを想いながらこれからも製作に励んでいきたいと思ひます。



編集会議



Boshipanのfacebookページ



できたてのJamを手渡し



学生目線の情報発信!  
今や高知大学にとって  
なくてはならない存在に。



人文学部 准教授 高橋俊

「Boshipan」は、長い間活動を継続させているS・O・Sの老舗団体です。『Jam』の発行を通して、高知大学生にとって役立つ情報を発信し続けてられています。私も昔からの愛読者の一人。高知大の「いま」を知るには欠かせない団体だと思っています。

# 安全な高知を子どもたちのために・・・小学校区でパトロール活動を実施

## ▶高知子ども守り隊 守るんジャー

### ▶活動目的

守るんジャーの活動目的は、「Safe Kochi for Children」―「安全な高知を子どもたちのために」を合言葉に、犯罪や事故の起こりやすい場所に隊員を配置し、パトロールしながら、学校・地域・警察と連携して子どもたちの安全を確保するということです。

### ▶今年度の活動

普段の活動では、朝倉小学校と朝倉第二小学校で、子どもたちが安全に下校できるように交通ルールの指導や防犯のためのパトロールを行っています。車通りの多い場所では旗を持って横断歩道に立ち、子どもが安全に渡れるよう誘導をしています。また、通学路を子どもたちと共に歩いて、安全に家まで帰れるように指導したり、一緒に帰る子どもがいなくなるときは地域の安全のためにパトロール活動を行ったりしています。パトロール中には地域の方々に積極的に挨拶をすることで、守るんジャーの存在や活動をアピールしています。活動が外に認知されることで少しでも犯罪の抑止になると思います。

守るんジャーでは、月に一回マモサミという全体会を行っています。マモサミでは活動予定や行事予定を確認したりしています。また、隊員同士の情報交換や交流の場でもあります。

その他の活動では、8月18日に行われた針木の夏祭りに参加しました。守るんジャーは、子どもたちと昔あそびとシャボン玉を行い、夜には花火の準備と打ち上げをしました。他には、椅子の準備、餅つきなどの会場設営の手伝いもしました。子どもや地域の方とたくさん交流することができました。

月1回、朝倉地区の子ども会や青少協の方々、市役所の方などが開いている「町づくりの会」に参加しています。ここで、月毎の地域の行事を確認して守るんジャーとして参加できる行事には、積極的に参加するようにしています。例えば、地域の方々とふれあいの場である「ふれあいサロン」や、アジロ山の自然体験イベントのお手伝いをしたりしています。

### ▶これからの活動

来年度は新入生を多く迎え、活動自体を続けられることが急務です。これからの活動としては普段の活動を続けながら、地域の方々のお手伝いや要請にできる限り応えていきたいと思ひます。



下校時のサポート活動

### 高知子ども守り隊 守るんジャー

～Safe Kochi For Children～

「将来、教員を目指すあなた！」  
「子どもが好きなあなた！」  
明日から子どもたちとふれあえる☆

☆活動内容☆  
小学校の下校時に合わせて、小学生と一緒に下校したり、危険な場所によって、旗を持って誘導したりしています！

☆活動時間☆

【朝小】	15:00～16:00	【朝二】	17:00～18:00
【朝小】	15:00～16:00	【朝二】	16:30～17:30

週に1回から自分のペースに合わせて活動に参加できます☆  
授業の空き時間（4or5限）に参加できます☆

興味のある方はお気軽に連絡してください！  
【マモ本部】 [mamo.kochi@gmail.com](mailto:mamo.kochi@gmail.com)

SYDボランティア奨励賞  
「文部科学大臣賞」受賞！



教育学部 教授 小島郷子

「守るんジャー」は大学近隣の小学校児童が安心して下校できるようにパトロール活動を行っていますが、現在は、パトロールのみならず通学路の清掃活動など、地域の一員としての活動も行っています。2011年には第5回SYDボランティア奨励賞「文部科学大臣賞」を受賞し、これまでの活動を評価していただきました。

“Safe Kochi for Children～安全な高知を子どもたちのために～”を合い言葉に、結成10周年を目指して、無事故で活動が続けられることを期待しています。

## 高知の“やばい(良いところ)”を発見! 高知大生に伝えたい

### ▶インプット高知 はちきん切尔西

#### ▶活動目的

はちきん切尔西は、高知の情報発信をしている団体です。高知大生は、県外生が多く、高知の魅力を知らず過ごしてしまう大学生が多いのではないのかと感じたことがきっかけで活動を始めました。大学4年間のうちに高知のことを知ってもらうことで『高知を説明できる高知大生』を作りたいと思っています。メンバーは2回生4人と少ないですが、高知大生に私たちが感じた高知の良さを私たちに発信し、インプットしてもらい、またその情報をアウトプットして欲しいと考えています。

#### ▶今年度の活動

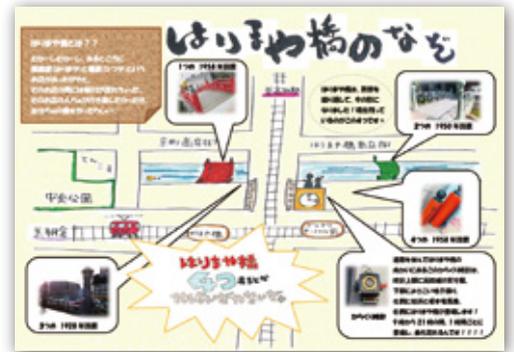
はちきん切尔西は平成23年6月からコラボ考房で支援をして頂きながら活動してきました。コラボ考房での支援が終了したため平成24年5月からS・O・S団体として活動をはじめ、活動としては高知の情報発信ということを中心にしています。情報発信ということで、団体自体の知名度をあげる活動から始まりました。高知の情報発信としては自分たちが“良い”と感じた高知を発信していくようにしています。発信方法としては、多くの人に手軽に見てもらえるようにブログの更新と、情報が手元に残るようにフリーペーパーの二種類の方法を取っています。ブログは高知県内のイベント情報やお店情報などをメインに更新しており、気になることがあれば実際に足を運び情報収集をし、ブログ更新をするようにしています。夏には、他団体とのコラボ企画もして頂き、その団体の取材やPRなどをしました。第1号フリーペーパーは「はりまや橋」を題材として、はりまや橋の紹介からはじまり、はりまや橋周辺のお店の紹介をしました。こういった活動は週1回のミーティングで決めるようにしています。

#### ▶これからの活動

現在の活動は継続していきたいと思っています。今後はフリーペーパー第2号発行にむけて精力的に活動したいと考えています。より多くの人に情報が届くように、広報にも力を入れていきたいです。現時点でメンバーが少ないため、これからも活動を継続していくために新メンバー獲得にむけても動いていきたいです。



はちきん切尔西のブログ



文字通り“はちきん”が揃ったグループです。

応援  
メッセージ

総合教育センター 教授 塩崎俊彦

高知の情報発信からスタートした活動は、誰のために?どんな情報を?と自らに問いかければ問いかけるほど二転三転。でも、立ち止まるたびに、何かをつかんで、次のステップに向かっているようです。もう少しで花開きます。がんばれ!

# 大学と地域をむすぶ学生ボランティアセンターの誕生

## ▶高知大学学生ボランティアセンター

### ▶活動目的

活動の目的は次の2つです。①日頃から地域の方と大学生とのつながりをサポートし、災害時に地域と地域、地域の方どうし、地域の方と大学生が支え合える関係を作ること。②そのようなコーディネート方法や地域とのつながりを生かし、災害時に学内でボランティアコーディネート、避難所支援などを担う災害時ボランティアセンターを運営すること。

### ▶今年度の活動

#### 4月、学生交流ラウンジのオープニングセレモニーのコーディネート

大学の新施設のオープニングセレモニーを高知大学学生ボランティアセンター（以下、ボラセン）のコーディネートで、奇術部や茶道部など9団体を招いて行いました。当日は大学教職員の方や学生などたくさんの方が来られていて、とても楽しい会になりました。



愛媛大生との交流

#### 8月、ボランティアフェスティバルへの参加@ふくし交流プラザ

私たちの住む朝倉地区にあるふくし交流プラザでのボランティアフェスティバル（以下、ボラフェス）に参加しました。ボラセンは学内団体とコラボして、被災地に送るノート作り（芸術文化コース吉岡ゼミ）や昔遊びコーナー（昭和レトロ）を企画しました。「こんなことを大学で欲しい」という要望、「こんなところに大学生が来てくれたら…」という地域のニーズを聞くスペースを設けました。「出張高知大学!!なんでも相談所」と名づけ、そこでたくさんの地域の声を集められたことが何よりの収穫でした。



ミーティングにて

#### 10月、防災キャンプ@ほっと平山（高知県香美市）

災害時を想定したアクティビティーを香美市の廃校を利用した宿泊施設で行いました。参加者は大学近辺のマンションに住む方々。サバイバル要素も取り入れたキャンプ形式の楽しいアクティビティーになっていて、「楽しみながら防災」をすることができたと思います。



学内施設オープニングの手伝い

### ▶これからの活動

今後は、①学内での事務局・相談所の設置、②大学近隣地域での学生コーディネート活動、③学生団体をつなげるためのリーダーズサミットの継続的な開催、この3つに力を入れて行っていきたく思います。また、この活動が東北での活動から始まっていることをしっかり意識して行うため、東北での被災地ボランティアや高知でできる支援活動や目に見える防災活動も継続的に行っていきたく思います。

目標は平成25年11月の全国ボランティアフェスティバルで県外の大学を多数呼んで、災害時に向けたネットワークづくりの一つの形をみせることができればと考えています。

「学生ボラセン」の  
活躍に期待しています!

一言  
コメント

総合教育センター 准教授 玉里恵美子

高知大学によろやく「学生ボランティアセンター」が“学生の力”で誕生しました。精力的な活動をくりひろげており、学内でも存在感を増しつつありますが、まだメンバーが足りません。多くの学生に参加してほしいですね。今後の活動に期待しています。

# コラボ考房プロジェクトで育む、やる気と企画実行スキル

## ▶コラボ考房プロジェクトとは

「自分の持っているアイデアで、高知をもっと元気にしたい!」、「やってみたいことがあるけれど、何から始めていいかわからない…」など、さまざまな思いを持っている学生の活動をサポートする仕組みがコラボ考房プロジェクトです。

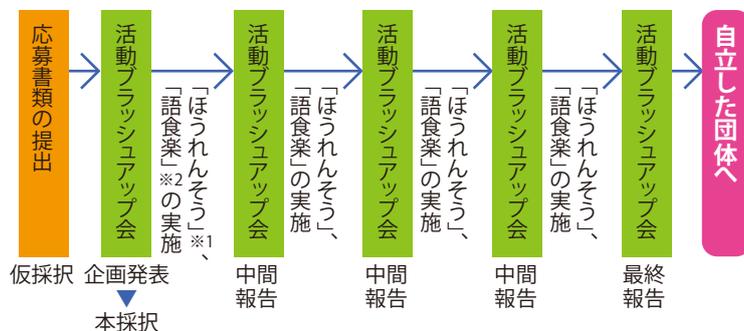
1年間、支援教員とコラボレーション・サポート・パーク(通称コラパ〜)に常駐しているスタッフが、企画のブラッシュアップやチームづくりのサポート、公費による支援などを行います。時にはチームが掲げるテーマに最適な社会人をコラパ〜から紹介し、プロジェクトに関わっていただくこともあります。

コラボ考房プロジェクトは、正課の授業ではありませんので、学生が主体的に取り組むやる気が問われます。企画を整理し形にしていくということは言うは易く行は難しです。充実した経験ができるよう、教員、スタッフとも学生たちを応援しています。

1年後には、S・O・S認定活動として継続したり、課外活動団体(サークル)として活躍する団体も多くあります。



## ▶コラボ考房プロジェクト 採択および活動のスケジュール



※1「ほうれんそう」:週に1度、活動の進捗状況を1枚のシートにまとめ報告する活動のこと

※2「語食楽」(ごくらく):月に1度支援教員とコラパ〜スタッフに対し、活動状況を報告するミーティングのこと

## ▶平成24年度の活動チーム

### りょうま と見守る会

まんが・サブカルチャーといった新たな視点から、オタク女子による高知の魅力の再発見と地域活性化を目指し活動。高知を舞台にしたゲーム・オリジナルコミックを制作。



### 虹野菜ファーム

クールベジタブルという環境に優しい農法で作られた野菜の広報活動に携わり大豊町の活性化を目指す。また、クールベジタブルを使った食育を模索中。今年2回目となる、「クールベジ萌萌えキャラコンテスト」には、海外からの応募も!



### 世界の厨房

高知大学物部キャンパスで学んでいる留学生ともしっかりと交流できるようなイベントを考える。留学生の母国の料理にチャレンジし、留学生の母国の文化を学ぶ。留学生と地域を結ぶ懸け橋を目指す。



### Team☆ARUPAKA

卒業チーム

まだまだあまり知られていない、高知在住の雑貨作家の存在をもっと広く知ってもらうために、雑貨市の開催を企画。



コラボ考房プロジェクトチームTeam☆ARUPAKAが企画した雑貨市の様子

### 国際茶屋

国際×地域×学生の交流を推進する事を目的にカフェの設立を目指す。中山間地域への留学生との交流運動会の企画やハロウィンパーティの開催などに携わる。



四万十町七里地区で実施した国際交流ホームステイ

### NSZ101

西土佐中組地域の伝統食「ふわふわ豆腐」に出会い、この伝統食の知名度向上を目指し、市内のアンテナショップでの販売等を実施。



イベントで「ふわふわ豆腐」を販売

### ウラ学同好会

高知ケーブルテレビの協力で、企業の隠れた魅力や努力から学ぶ「ウラ学」を発信する「高知大生が行くウラ学のススメ」を制作。企業の取材から番組構成表の作成、リポーターまで学生が担当。



番組制作の様子

# 高知大学で学びたいすべての学生のために

## 総合教育センター修学支援部門の取り組み

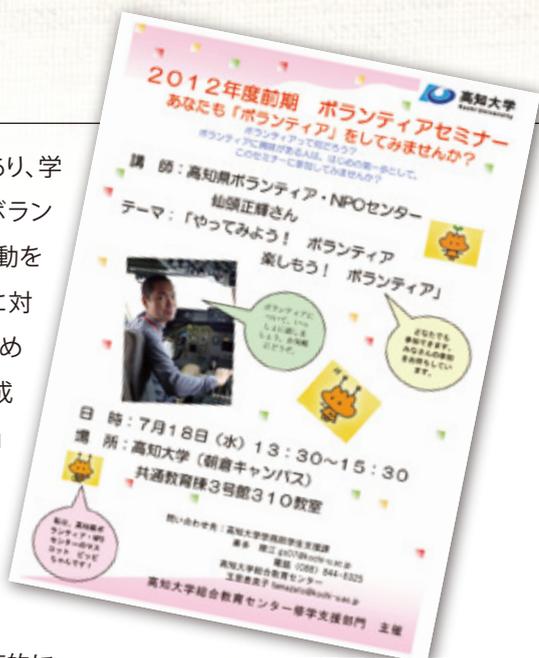
2011年度より新しい体制となった高知大学総合教育センター修学支援部門は、部門長(専任教員)1名、兼任教員3名、学生支援課により組織化されています。修学支援部門では、「高知大学で学びたいすべての学生のために」をキャッチフレーズに、誰もが学びの楽しさ、喜びを感じるキャンパスづくりを目指しています。

現在、修学支援部門で取り組んでいる重点的な項目は、①準正課活動支援、②障がいのある学生への支援、③学生相談体制の充実、④修学情報の発信の4点です。

## 1 準正課活動支援について

高知大学には多くの体育系・文化系の課外活動サークルがあり、学生たちは日々活発に活動を行っています。その他にも、授業やボランティアを通じて、新しい活動に挑戦したり、「何かをしたい」と活動を創造しようとする学生たちもいます。このような学生たちに対して、学生の主体的な学びを準正課活動として定着させていくために、総合教育センターの他部門(大学教育創造部門、キャリア形成部門、社会協働教育部門)や、「リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク(通称 コラパ〜)」と連携しながら、S・O・S認定団体の支援を行っています。

また、東日本大震災後に被災地ボランティア活動を行った学生を集中的に支援し、学生の主体的な取り組みの中から「学生ボランティアセンター」が立ち上がりました。その後も継続的に学生ボランティアセンターへの運営サポートを行っています。さらには全学生対象の研修やセミナーを開催してボランティア人材の育成と、ボランティア活動強化のための環境整備を図りました。他大学の学生団体との交流にも力を入れています。



## 2 障がいのある学生への支援について

全国的に身体の障がいあるいは発達障がいのある学生の在籍数が増加傾向にあります。各学部が抱える課題を整理しながら、障がいのある学生をサポートする学生チューターの育成や、教職員への啓発活動を行っています。保健管理センターとも連携して、発達障がいのある学生の修学支援や就職支援についても取り組んでいます。

# 3 学生相談体制の充実について

高知大学にはアドバイザー教員制度があります。アドバイザー教員は、アドバイザー（学生）が学生生活を送るうえでの困りごとや、進学・就職のことなどに対する相談相手です。各学部で特徴のあるアドバイザー教員制度を整えています。その機能充実に向けて全学的な立場から検討を重ねています。学生支援課には「なんでも相談窓口」があり、保健管理センターでは「こころの相談室」としてメンタル面の相談も受け付けています。

また、2012年度から毎月第4水曜日に「キャンパス・サロン」を実施しています。ひとりでも参加することができ、ふらりと立ち寄ってお茶を飲みながら、ゆったりと話しをすることができるサロンです。（開催場所は、おうちクラブ1階ほっとステーションです。開催日時については校内に掲示しているポスターで確認してください。）



キャンパス・サロンのポスター

# 4 修学情報の発信

修学に役立つ情報や学生生活のエッセンスをまとめた「修学支援部門のかべしんぶん」を毎月5日に発行し、朝倉・物部・岡豊のキャンパスで学生の目に触れるところに掲示をしています。グループウェアでも配信しています。また、おうちクラブほっとステーション内に「修学支援文庫」として修学支援部門の活動に有用な図書を揃えており、誰にでも貸し出しできるように公開しています。



▶ 修学支援部門の活動についてのお問い合わせ

高知大学 学務課 学生支援課

〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号

☎ 088-844-8325    ✉ [gs07@kochi-u.ac.jp](mailto:gs07@kochi-u.ac.jp)

通称「コラパ〜」

▶ S・O・S認定活動についてのお問い合わせ、各団体へのお問い合わせはこちら

高知大学 リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パーク

〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号 IKUS 2階

☎ 088-844-8932 FAX:088-844-8948    ✉ [cobo@kochi-u.ac.jp](mailto:cobo@kochi-u.ac.jp)